

笑顔をつなぐ広報紙

広報ひとよし

広報人吉

HITOYOSHI City Public Relations

施政方針号

2017

3/31

No.1079

ヤマセミと人が共存する
自然豊かなまち人吉市





1月の大寒波。大雪で真っ白になった市内



熊本地震で被災した麓町の旧本庁舎

1 はじめに

平成28年は1月の大寒波に始まり、4月の熊本地震の発災という大変な災禍に見舞われた1年でした。本市で、観光をはじめ各種産業への深刻な打撃や麓町本庁舎の被災による市庁舎機能の分散など、さまざまな影響をもたらした年でした。この状況を本年の1年間で刷新することは叶いませんが、平成29年という新たな年をつつが無く迎え、熊本県全体が日常の安寧を取り戻しながら、復旧、そして、創造ある復興に向けた輝かしい1年であることを皆さまと共に祈り、さらに、その一翼

を担うべく、その思いを新たにしたいところです。議員各位をはじめ市民の皆さまのご理解とご協力をいただきながら更なる市政発展に傾注してまいりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

本市では、平成28年は熊本地震の発災という困難を通して、人吉球磨の連綿と続いてきた歴史や文化、風土、人、それらを背景にした魅力そのものに導かれた機縁のありがたさを感じた年でもありました。市庁舎問題から政策課題まで国や県をはじめ人吉応援団ともいえる多くの方々のご支援とご高配をいただき、さらにはふるさと納税という制度を通して、多くのご協力を得たことも大変ありがた

く、心強く思っているところです。また、時代小説の舞台として相良家時代の人吉藩をモデルに描いていただいている佐伯泰英先生も人気作品を通して本地域を大きくご支援していただいていることを知り、大変光栄に感じているところです。このような皆さまのご恩とご期待に報いるためにも、歴史的、文化的にも奥深く、思いやりに満ちた人々が住み、情緒豊かな日本のふるさととの原風景ともいえる本市をさらに磨き上げ、皆さまに愛される場所で在り続けられるよう一層の努力をしたいと思ひます。

平成29年度 5つの重点施策

ことしは、任期の折り返しの年です。選挙で約束した108の施策は、平成28年度策定した第5次総合計画後期基本計画に位置付け、着実な実施に努めているところであります。市民の皆さまのご期待に応え、約束を目に見える形とするため、新たにこの1年間に取り組むべき5つの重点施策を打ち立てました。5つの

重点施策とは、安全・安心、健康といった市民の皆さまの満足度を上げるための守りの施策として、「新市庁舎建設を中心とした安全・安心なまちづくり」「健康寿命日本一の実現」「ふるさと人吉を支える人づくり」の3つを。人口減少社会に対応する攻めの施策として「しごと創出から始める移住定住促進」「生かす、稼ぐための観光戦略」の2つを掲げています。



球磨川水害タイムライン会議の様子

「守りの施策」と表現してはいますが、これまでの熊本地震や豪雨、台風、大雪と、多くの災害に対処し被害の状況を見る中で、私は、市民の安全・安心が全ての政策、施策の基盤でなければならぬという思いが信念に変わりました。1つ目の「新市庁舎建設を中心とした安全・安心なまちづくり」ですが、防災拠点となる堅牢な新市庁舎の建設を最優先で進めます。発生が危ぶまれる人吉盆地南縁断層層の地震に備え、現在4カ所に分かれてご不便をお掛けして

いる市庁舎機能の分散状況を早急に解消するため、計画に沿って着実に進めたいと思ひます。併せて、学校やコミュニティセンターなど避難所となっている施設も老朽化が進んでいますので、今後策定する「公共施設等総合管理計画」の中で改修、耐震化の検討を行い、マンホールトイレの設置など避難所としての受入れ設備の整備に努めていきます。また、今後実用化する「人吉市業務継続計画」と「球磨川水害タイムライン」などのソフト対策事業も災害発生時に円滑に運用できるように、徹底を図っていきたくと思ひます。

平成29年第1回 人吉市議会定例会

施政方針

市民みんなが健康で笑顔で暮らせるまちを目指して



2月27日から3月28日まで開催された平成29年3月市議会の冒頭で、松岡市長が述べた施政方針の主な内容をお知らせします。施政方針とは、市政運営に対する市長の基本的な考え方や主要な施策について述べたものです。

※広報ひとよし掲載用に表現を一部変更しています。

健康寿命日本一の実現

2つ目の重点施策として、「健康寿命日本一の実現」を目指します。私たち人間の最大の願いは健康だと考えます。自分のため、家族のため、地域のためにも市民一人一人が健康であることが市政の大きな目標であり、全ての土台でもあります。妊娠・出産期から高齢期まで全てのライフステージに応じた健康づくりの取り組みが必要です。今後地域を借りながら、地域や職場、学校などあらゆる単位での健康づくりを進めていきます。

団塊の世代の方々が75歳以上となる平成37年には、高齢化率が37・4割に達すると推計されています。このような超高齢社会では、高齢者が雇用をはじめさまざまな地域の担い手として「役割と活躍の場」を持つことが重要であり、生き生きと活躍する活力ある生涯現役社会を目指します。

ふるさと人吉を支える人づくり

3つ目は、「ふるさと人吉

産だと考えています。これまでに以上に「ひと」に焦点を合わせ、「人吉」利他の精神聖地」という魅力を全面的にプロモーションしていきます。これら日本遺産や外国人に優しいまちづくりを含め、本市の豊かな観光資源を生かす施策を、戦略性を持ちながら進めていきたいと思

重点施策を支える3つの推進エンジン

5つの重要施策をスピード感をもって展開していくために、推進エンジンとして「横串を刺す企画政策部の設置」「女性や若手職員の積極的な登用」「官民融合したプロジェクトの推進」の3つの取り組みを進めていきます。

1つ目の「横串を刺す企画政策部の設置」ですが、人口減少社会で地方創生などの政策課題に取り組む上で、市民の需要の多様化や社会の複雑化に対応するため、組織に横串を刺す企画政策部を中心に、総合計画・総合戦略に基づく計画性と社会情勢の変化に合わせた臨機応変な政策・

を支える人づくり」です。本市の長い歴史をひもとくと、

地域最大の資源は「ひと」であり、人材の育成こそがまちづくりの原点であると認識しています。そのためにも、子どもたちがふるさと人吉に誇りを持てる学校教育の推進と教育環境の充実を引き続き努めていきます。新たな取り組みとしては、NPO法人人吉市体育協会との協働事業です。スポーツ振興のための助成制度の創設、いわゆるアスリート基金で、選手育成強化や指導者養成などを進めていきます。

子どもたちだけでなく、保護者が安心して子育てできる環境づくりも重要です。子育て世代の経済的負担軽減のため、子ども医療費の中学卒業までの無料化を10月実施に向けて今議会に条例改正案と予算案を提案します。これまで長きにわたり保護者から強い要望があったもので、歴代の市長が財政状況をみながら少しずつ拡充を続けてきたものです。

しごと創出から始める移住定住促進

3つの「守る」施策を土台に、人口減少社会を迎え撃つ「攻め」の施策を展開していきます。「しごと創出から始める移住定住促進」「生かし、稼ぐための観光戦略」の2つの取り組みです。これらは、平成28年度に策定した「人吉市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中に4つの基本目標を定めています。そのうち「本市にしごとをつくり、安定した雇用を創出する」「本市への新しいひとの流れをつくる」という2つの基本目標で仕事創出や交流人口の増加を目指しているところです。

「しごと創出から始める移住定住促進」ですが、現在ビジネスコンサルタントを配して業種を問わず、経営課題全般に対応した中小企業事業者と創業希望者の相談窓口の機能を有する「起業創業・中小企業支援センター」の開設準備に取り組んでいます。優秀な産業支援人材の獲得という大きな課題はありますが、平成29年度は運営体制や必要な財源、設置場所を人吉商工会



外国人観光客が鍛冶屋町通りを歩いている様子



設立10周年を迎えた子ども王国保安官の記念大会

施策の展開を行っていきます。

2つ目に「女性や若手職員の積極的な登用」として、職員の人材育成に一層力を入れていきたいと考えています。熊本地震に伴う市庁舎機能移転では、短期間でやり切る市組織の計画性と団結力、行動力に改めて頼もしさを感じました。その職員の持つ力をさらに発揮していくため、若手職員の政策提言を生かせる仕組みづくりや職務経験を積ま

せる計画的な人事を行っていきます。女性の登用は、管理職をはじめ各分野で女性を積極的に登用し、さらなる活躍を期待したいと思います。

最後に、「官民融合したプロジェクトの推進」です。出来上がったものに意見をいただくだけではなく、政策立案段階からの市民参画と協働による事業の推進、パートナーとしての官民の役割分担ということを考える時期にきていると思います。市民一人一人

議所などの関係機関と協議しながら早期に具体化し、平成30年度の開業に向けた準備を進めたいと思います。

地方創生の一環として取り組んでいるスマート林業推進で、林業の成長産業化や中核工業用地へのハラル関連企業誘致の促進など「しごとを創る」取り組みに注力するとともに、地方創生事業で取り組んでいる「賑わい創出事業」でUIJターン促進のためのターゲットの明確化、情報発信のためのポータルサイトの開設など移住定住施策を体系的に整備していきます。



移住定住促進に向けて行われたアイデアソン

生かし、稼ぐための観光戦略

最後に、「生かし、稼ぐための観光戦略」ですが、人口減少が進む現状で、最も大事な経済政策は交流人口を増やすかということだと思います。人吉球磨地方は昨年、「相良700年が生んだ保守と進取の文化」として、歴史的、文化的価値の高い神社・仏像や信仰、風土や生活文化を高く評価していただきました。これらの資源をより積極的に生かしていくために、日本遺産のストーリーを伝える情報発信と体験型観光の提供、人吉球磨に数多くある観光資源の発掘・磨き上げを行い、人吉球磨10市町村と人吉球磨広域行政組合が一体となった事業展開を進めていきます。

交流人口の増加に向けた新たな切り口として、「外国人に優しいまちづくり」を進めていきたいと思

り前とは、街中で明るい声であいさつをしてくれる子どもたちと、それを見守ることも王国保安官、町内会活動や校区ごとの防犯パトロールなどです。この相良700年の歴史の中で培われた利他の精神や思いやりの心こそがほかの地域にはない最大の価値です。

人口減少社会の中で増え続ける空き家や耕作放棄地は、見方を変えれば新たな人の流入を受け入れる資源ともいえます。捉え方や考え方を切り替え、何事も前向きにチャンスだと物事を捉えて進めることが地域の発展と持続につながります。ことしは全てをチャンスと捉え、先ほど述べた5つの重点施策と3つの推進エンジンを柱に市政を進めていこうと思

2 組織別・総務部関連

新市庁舎建設事業の進捗状況

市庁舎移転建設関係ですが、新市庁舎は基本的な配置を決定し庁舎の全体像がほぼ...

公共施設などの計画的な管理

公共施設等総合管理計画ですが、高度経済成長期に集中的に建設された公共施設や道路...



実証運行した予約型乗合タクシー

比べ、2倍以上の額となる3098万9100円の寄付をいただいたところです。

公共交通への新たなステップへ

公共交通関係ですが、地域公共交通利用者や交通事業者、公的機関で組織する人吉...

一人が新市庁舎への思いを強くし、市庁舎建設を円滑に進めていくことを最大の目的とした「市庁舎建設に伴うチーム人吉」を立ち上げたところ...

肥薩線利用促進・存続期成会や肥薩線を未来につなぐ協議会は、これまでの経緯を十分に尊重しながら、肥薩線の振興を図る新たな組織を立ち上げるために発展的解消を行...

球磨川流域の治水対策

球磨川流域の治水関係ですが、球磨川治水対策協議会で、戦後最大の洪水被害をもたらした昭和40年7月洪水と同規模の洪水に対して安全に流下させることを目標とした9つの治水対策案の検討を行いました。



ヤマセミを正式に市の鳥に指定

の目的として位置付けられています。今後は、総合計画実施計画と中期財政計画との関連性を持たせながら、関係部署で「公共施設等総合管理計画」の詳細計画となる個別施設計画の策定を行うこととしています。

ヤマセミを市の鳥に指定

ヤマセミの市の鳥への追加指定は、市民の方々からの要望書の提出や、12月議会での

対策案を単独で実施した場合、目標の治水安全度に達しないとの結論に至りました。これを受け、これまでの検討結果の整理を行い、今後複数の対策を組み合わせる案を検討するため、1月6日～2月6日まで意見の募集が行われたところですが、これらを参考に、球磨川の治水安全度を高める方策など、さらなる検討が進められるよう期待しているところですが。

差別がない社会を目指して

人権啓発関連ですが、部落の完全解放と差別撤廃を目標に据えながら人権社会の確立を目指し活動する部落解放同盟熊本県連合会主催の「部落解放第30回熊本県研究会」が、11月18日(土)・19日(日)に人吉球磨地区で開催される予定です。



ふるさと納税を使った高校生の海外派遣事業

野鳥が共生する豊かな自然環境にあることを誇りとしていただくことを望んでいるところです。

ふるさと納税額が2倍に

ふるさと納税関係ですが、平成28年度から返礼品の数を39品目から89品目に増やし、寄付額の増加に向けた活動を積極的に行ってきた。その結果、ことし1月末現在で、昨年同時期と

3 組織別・市民部関連

消費者の被害防止に向けた取り組み

消費者行政関係ですが、ことし1月に市消費生活センターを市役所西間別館建物内からその敷地内のプレハブ事務所へ移転し相談業務を行っています。

消費生活センターが確保でき、センターを利用する方が安心して利用できる環境を整ったものと思います。今後も、球磨郡内の町村や社会福祉協議会と連携した出前講座を随時開催し、消費者被害の未然防止・啓発にも努めるなど、引き続き、本センターを人吉球磨地域の消費生活相談の中核拠点として、充実を図っていききたいと思います。

国民健康保険の財政運営が平成30年から県に移行

国民健康保険関係ですが、国民健康保険法の一部改正で財政運営の主体が平成30年4月から県に移行することにな

っています。今後は、県で国保運営方針の策定や市町村別の納付金と標準保険料率の決定がなされ、平成29年度中に各市町村に示されますので、本市も県から示された標準保険料率を参考に、人吉市国民健康保険運営協議会の意見を伺いながら、本市保険料率の決定など準備を進めていききたいと思います。

4 組織別・健康福祉部関連

避難行動要支援者の情報共有化・支援促進

災害時要支援者の支援ですが、平成28年度に災害時避難行動等要支援者システムの再構築を行い、平成29年度当初から運用を開始することにしています。このシステムで、避難が必要な要支援者を名簿などのデータベースと地理情報システムの双方で連携して把握し、円滑な避難支援が行えると思っています。

要支援者の状況をきめ細かく把握するため、町内会単位で作成する災害時等支え合いマップ作成の支援を行い、災害時のみならず、日常の各地域の支え合いや声掛けなどの見守りネットワークの充実を図っていきたいと思います。

合支援事業」の新たな展開に向け、体制の確立を進めていこうと思っています。

介護保険関係ですが、平成29年度は「人吉市いきいき高齢プラン（第6期介護保険事業計画・老人保健福祉計画）」の最終年度で、平成30年度から実施する第7期計画策定の年です。介護予防や認知症対策など、地域包括ケアの推進のための施策を着実に実行するとともに、間近に迫った2025年問題を見据えて、人吉市介護保険事業計画等策定・運営委員会をはじめ多くの市民の意見をいただきながら新たな計画を策定していきたいと思います。

子育て世代包括支援センター設置に向けて

母子保健関係ですが、核家族化や地域のつながりの希薄化など、地域での妊産婦や子育て家庭を支える力が低下し子育て世代の不安感や負担感が増していると言われています。国は、平成32年度末の全国設置を目指し、総合的相談支援を提供するワンストップ拠点として「子育て世代包括

障がい者雇用の促進

障がいがある子どもの支援ですが、平成29年度から人吉球磨圏域の障がい児2次支援施設として、人吉市社会福祉事業団で児童発達支援センターが新たに開設される予定です。この施設は、障がいがある子どもやその家族への支援、保育園や幼稚園との連携、相談と支援を行うものであり、障がい児支援施策の質の向上が図られると期待して

います。

障がい者の就労促進ですが、人吉球磨の障がい者関連団体などで構成する人吉球磨障がい者総合支援協議会の新たな会員として、平成28年度から人吉商工会議所が事務局である人吉球磨雇用対策協議会に入会していただいたところです。今後は、雇用者側の立場としての意見もいただきながら共に知恵を出し合い、障がい者の就労促進を図っていきたいと思います。



子育て中のお母さんたちから話を聞いたひとよし未来カフェ

子育て短期支援事業スタート

子ども・子育て支援事業関係ですが、平成29年度は、教育・保育の一体的な提供を推進するため、新たに保育所1園が認定こども園に移行される予定です。

子ども・子育て支援事業計画に基づく新たな支援制度として、子育て短期支援事業、



各地域で行われている介護予防教室

いわゆる「ショートステイ」を平成29年度から実施する予定です。この事業は、保護者の疾病などの理由で家庭で養育を受けることが一時的に困難となった児童を福祉施設や里親などの委託先で養育を行うものです。これらの取り組みでより一層、子ども・子育て支援対策の充実が図られると思っています。

新たな展開と介護保険事業計画の策定

高齢者福祉関係ですが、平成29年度から介護予防・日常生活支援総合事業が始まります。地域住民が主体となって生活支援・介護予防サービスの充実を図ります。平成28年から生活支援体制整備事業を人吉市社会福祉協議会の協力を得て実施しています。今後は、生活支援の担い手の養成や介護予防サービスの開発など地域全体で高齢者の生活を支える体制づくりを進めていきます。

地域の医師会をはじめとしたさまざまな職種の団体・機関と連携し、「在宅医療介護連携推進事業」と「認知症総

支援センター」を法定化する方針です。本市では、平成29年度中の設置を計画しており、これまでの母子保健事業と併せて医療や福祉などの連携の強化を図りながら妊産婦や子育て家庭をこれまで以上に継続的に支援していきたいと思います。

安心して出産できる医療環境を維持するため2月15日、球磨郡町村会長の森本完一錦町長と共に、県に対し「周産期における母体および新生児の生命と健康を守る搬送について」要望書を提出したところです。

「元気で健やかに」取り組み強化

市民の健康づくりですが、町内嘱託員や健康推進員の方々、関係団体などの協力をいただきながら市民健診や健診後の保健事業などを進めています。平成29年度からは、特定健診受診率のさらなる向上を目指し、受診希望者のみならず特定健診の対象となる全ての方に問診票を送付することとしています。健診後も、家庭訪問などで結果説明と健

5 組織別・経済部関連

農業経営安定化への取り組み

健康指導に重点を置いた取り組みの強化を図り、「自らの健康は自らの手で」という市民の意識を醸成し、元気で健やかに過ごしていただくことで「健康寿命日本一の実現」へとつないでいきたいと思っています。

農業振興関係ですが、農業の担い手と農地利用を取り巻く課題は深刻で、現在、関係機関の指導や助言を受けながら「人・農地プラン」に基づく地域内での話し合いを積極的に行っていたいただいているところです。具体的には、中神大柿地区と漆田地区で地域営農・農地集積計画を策定され、その計画に基づきさまざまな取り組みが実施されています。大畑麓地区は、集落営農組織の法人化に向けて協議が進められており、法人設立の最終段階に入っているとの

ことです（3月15日に農事組

合法人おこば設立。上原田地区と永野地区も現在、自発的に将来の地域農業の方向性や農地の集積などについて話し合いが進められており、本市も引き続き、関係機関との連携を強化しながら農業経営の安定化と所得向上、耕作放棄地の発生防止に努めていきたいと思っています。

人吉農業振興地域整備計画ですが、農業振興地域の整備に関する法律に基づき策定を行うもので、おおむね5年ごとに見直しを行うものです。本市は平成29年度が本計画の見直しに当たり、7月から農用地などの面積や土地利用、農業就業人口の規模、農業生産などの事項に関する現況と将来の見直しについての基礎調査などを実施し、平成30年10月の策定を目指したいと思っています。

新たな農業委員任命制度

農業委員会関係ですが、7月に現農業委員の任期が満了を迎えるため、広報ひとよしやホームページで対象者に周知を行っています。また、1月23日（30日）に人吉市農家振

興組合長の方々を対象とした説明会を併せて開催したところです。今後本市では、人吉市農業委員候補者評価委員会を設置。厳正に農業委員候補者を評価し、最終的には市議会の同意を得て任命することとしています。

農地利用最適化推進員も、人吉市農地利用最適化推進委員候補者評価委員会では厳正に候補者を評価し、農業委員会が委嘱することとしています。

雇用の増加と6次産業化の進展に期待

企業誘致関係ですが、共栄精密株式会社では、国の地域経済循環創造事業の交付金を活用して梢山工業団地内にキクラゲ栽培棟を新たに増設されるに当たり、1月13日に県と本市の3者で工場増設に伴う立地協定を交わしたところです。今回の工場増設に伴い、これまで本市の特産物として位置付けてきた高品質の安定した生産供給で、さらなる販路拡大が可能となるものと期待しています。



共栄精密株式会社と県、市が協定を交わした

開発や菌床供給の拡大に伴う売上高の増加、さらには、雇用の場の増加が見込めます。より一層の農業の6次産業化の進展と、農商工連携による付加価値の向上に寄与する事業として大いに期待しているところです。

人吉球磨一体となった圏域観光の推進

観光振興関係ですが、平成28年4月に熊本地震が発生し観客や参加者の安全を考慮して開催中止した「日本百名城人吉お城まつり」は、平成28年11月の実行委員会全体会議で平成29年度の開催日を4月29日(土)・30日(日)の両日に決定して準備を進めているところです。

ことしの人吉お城まつりは、従来のような歴史と伝統文化を受け継ぐ市民総参加の祭りという目的に加え、熊本地震からの復興イベントと位置付けて観光客や市民の方々に昨年の分まで楽しんでいただきながら地域の活性化につながる祭りを目指し、官民一体となり取り組んでいこうと思っています。

日本遺産の第1次指定を契機に、人吉球磨圏域の交流促進と観光の広域展開への期待が高まりつつあり、相良歴史回廊ミュージアム構想など文化財を活用した地域経済の活性化に向けて一步を踏み出したところです。こういった機運の高まりを地域経済の振興につなげるため、人吉球磨の広域観光といった部分をさらに強化し、確立したいと考えています。具体的には、行政や民間、観光関係者が一堂に会する組織化など、圏域内観光を推進する体制を整えることを人吉球磨広域行政組合などを中心に検討を始めています。周辺地域である八代港のクルーズ船寄港の世界拠点化に向けた動きや、3月4日から運行開始の観光列車「かわせみやませみ」など、取り組みの大きな後押しになるものと期待しています。



3月4日に運行を開始した新観光列車「かわせみやませみ」

新たな林業振興に向けて

スマート林業関係ですが、平成27年度から航空機による森林のレーザー計測を実施し、市内のほぼ全域の地形と山林のデータを取得し解析まで終了しています。そのほか、「林業ハッカソン」や「ひとよし産業祭」に併せて林業フェアを開催し、市内外から参加いただいた多くの方に本市の森林の豊かさや林業の発展性をPRできたものと思っています。また、次世代を担う子どもたちに森林・林業の重要性を伝えるため、市内中学校の協力を得ながら林業教室を開催したところです。今後は、人吉地域スマート林業ラボ協議会の研究員をく



最新技術を視察する林業ハッカソンの参加者

ま中央森林組合内に配置することで、レーザー計測で得た森林情報の提供や新たなビジネスモデルを構築するためのコーディネート役を担い、この事業の中核としてさまざまな分野での取り組みを推進していただくと期待しています。

上原田地区の農業用水・国・県と一体で推進

川辺川総合土地改良事業ですが、本事業の廃止と計画変更などの周知を図るため、国から関係6市町村の全世帯にチラシが配布されたところです。関係農家の皆さまには、1月下旬から農業用排水事業などの説明資料が送付され、不明な点などは改めて説明会などで対応することとなっています。今後は、国・県と共同で3月下旬から順次関係農家の皆さまからの同意取得など、所定の手続を開始する予定です。

本事業に関連し、単県事業としてすでに上原田地区で水源調査を終えた井戸の揚水ポンプ設置と送水管の整備が現在進められているところで

す。引き続き、水を待ち望む農家の方へ1日も早く農業用水を届けられるように国・県と一体となって事業の推進に努めていきたいと思えます。

6 組織別・建設部関連

曙橋大規模補修とスマートインターチェンジ整備に着手

土木関係ですが、平成26年度と平成27年度に実施した橋りょう詳細調査の結果、曙橋は供用開始から約39年が経過し、主桁の腐食や防食機能の劣化など各所の損傷が報告されたところです。曙橋は球磨川に架かる水の手橋、大橋、人吉橋、紅取橋と並ぶ主要橋りょうとして位置付けられており、平成29年度～31年度にかけて、大規模な補修工事を実施することとしています。現在、実施設計の作成と関係機関との事前協議を行っており、準備が整い次第補修工事に着手することとしています。

そのほかの橋りょうも、近接目視点検調査を実施して



補修工事を予定している曙橋



スマートインターチェンジの竣工安全祈願祭

り、その結果を踏まえながら年次的に補修工事などを計画していきたいと思えます。スマートインターチェンジ整備事業ですが、平成28年2月から進めていた用地交渉は、同年11月末をもって全筆の用地取得が終了しています。事業の趣旨を理解していただき用地の提供をいただいた地権者へ深く感謝申し上げます。

末に終了予定で、さらに国道219号仮設道路工事は、7月の発注を目指すべく準備を進めているところです。

7 組織別・
教育部関連

「不易」を大切に
した
学校教育の推進と充実

学校教育関係ですが、激動する現代社会を生きる子どもたちは将来、国境を越えて世界各国の人々と協働していくことがますます求められることと思います。本市も英語教育や情報教育などを通して、時代の変化に柔軟に対応していく力を育むとともに、社会が大きく変化しても時代を超えて変わらない価値のある「不易」を大切に、ふるさとに誇りを持てる心豊かな子どもたちを育む学校教育の推進と充実を努めていきたいと思います。

本市の学校教育の充実振興を図ることを目的に設置している「人吉市立教育研究所」では、2月9日にカルチャーパレスで市内小・中学校の教職員約200人が一堂に会する研究発表大会を開催しました。本市の子どもたちの学力や生活の実態と意識調査を通しての課題分析やICT機器

の効果的な活用による「分かる授業」、また、小・中学校連携の英語教育のあり方など、それぞれ報告があったところです。全ての部会で、これまでの実践の成果と課題を明らかにするとともにこれからの本市の教育が目指す方向性を見いだしており、何よりそのことを市内小中学校の全ての教職員が共有できたことは大変意義深く、非常に価値のある研究発表大会であったと思えます。

小学校運動部活動の社会
体育移行に向けて準備

社会教育関係ですが、小学校運動部活動の社会体育移行を、平成31年4月の完全移行に向けて準備を進めています。これまでに、保護者へのアンケート調査や、校区ごとに校区公民館長や町内会長、PTA、子ども会などの代表者の方々による検討委員会を開催しています。各校区で開催した検討委員会では、さまざまな意見や課題がありましたが、全ての校区に共通するものが「指導者の確保」という問題でした。ことし1月に全

6校区の検討委員会を合同で開催し、指導者の確保に取り組むことを確認したところで、全ての子どもたちがスポーツに親しむことができる機会をつくることは子どもたちの健全な成長に欠くことができないものです。市民の皆さまや市内の事業所にお勤めの皆さまの支援と参画をいただきますようお願いいたします。

人吉市花まる教室は、事業開始から5年目を迎え、平成29年度からは社会教育の一環として実施する予定です。当面は規模を縮小して校区公民館で開催しますが、普段の学習では得られない児童の空間認識や数学能力など思考力や判断力、表現力などを育むことは子どもの成長に大きな意義があるものと思えますので、地域の教育力向上といった人吉スタイルの学習の確立を目指していきたいと思えます。

盛況だった春風マラソン

2月19日に開催した第14回「ひとよし春風マラソン」は、全国各地から5千人を超える選手の方にエントリーをして



約2千人のランナーが走ったひとよし春風マラソン・ハーフの部

熊本を元気に
県人吉球磨大会

第72回熊本県民体育祭は、9月に本市と球磨郡を会場に24競技、38会場で約7千人が参加し開催される予定です。平成28年の大会は、熊本地震のため開催中止となりました。被災地の復興にはまだまだ多くの時間とエネルギーが必要としていますが、被災された方を励まし、元氣を取り戻していただくためにも、2年ぶりとなる県民体育祭人吉球磨大会には、県民から大きな期待が寄せられています。その期待に応えることはもとより、温かいおもてなしで選手団を迎え、人吉球磨大会は素晴らしい大会であったと言



県民体育祭のシンボルマーク



青井阿蘇神社を視察するアドバイザー

つていただけるよう都市一体となつて取り組んでいきます。市民の皆さまの支援と協力をお願いします。

会場となる施設の整備が急務でしたが、平成28年度に第一市民運動広場の照明設備、村山公園テニスコート、市民プール、射撃場、川上哲治記念球場の改修を実施。平成29年度に相撲場の補修などをもつて終了する予定です。

日本遺産の魅力
世界へ未来へ

日本遺産関係ですが、人吉球磨の10市町村と関連団体で構成する「人吉球磨日本遺産活用協議会」で、日本遺産ブランド確立のため、建築家の

隈研吾さん、デザイナーの原研哉さん、江戸川大学特任教授の鈴木輝隆さんにアドバイザーに就任いただき、さまざまな取り組みを行っているところです。アドバイザーが行われる「日本遺産人吉球磨シンポジウム」などを通して日本遺産人吉球磨を世界へ、未来へ発信する方向性をご教示いただけるものと思えます。人吉球磨の官民連携の下、日本遺産魅力発信推進事業を進めていきます。



日本遺産人吉球磨シンポジウム

8 組織別・
水道局関連

人吉市水道事業ビジョン
の着実な実施

水道関係ですが、本市の水道事業は昭和32年の一部給水開始以来60年近くを経過しました。近年は、少子高齢化・節水型社会への移行による給水人口と収益の減少という厳しい状況下で維持の時代を迎えているところです。課題の老朽化した施設や管路の更新、地震などの災害対策は「人吉市水道事業ビジョン」に示されていますように、可能な限り延命化を図り、安全・安心で強じんな水道システムを構築するため、健全な事業経営を維持しながら熊本地震の経験も踏まえ計画的に実施していきたいと思えます。

下水道施設の更新を継続

公共下水道事業関係ですが、昭和49年の事業着手から40年以上が経過し、汚水中継ポンプ場や管きよなどの下水道施設の老朽化が進んでい



水道週間に実施する漏水調査

えられたことは、一重に多くのボランティアの方をはじめ、ご声援をいただいた市民の方や関係企業の方の長年の支援のたまものであると心から感謝します。

す。また、熊本地震の教訓を生かした災害に強い施設運営と、人口の減少に伴う公共下水道使用料収入の減少傾向など、厳しい財政状況の中で乗り越えなければならぬ多くの課題を抱えているところです。これらの課題に対して、老朽化した下水道施設の効率的な改築と地震などの災害対策を見据えた長期的な計画を策定し、健全な事業運営なお一層努めていくところで

復興へ、
出発進行。



広報ひとよし平成29年3月施政方針号

発行・編集 人吉市役所企画課

シティプロモーション推進室

〒868-8601 熊本県人吉市下城本町1578番地1

<http://www.city.hitoyoshi.lg.jp/>

✉ info@hitoyoshi.kumamoto.jp

☎ (0966) 22-2111 FAX (0966) 24-7869

表紙：正式に市の鳥になったヤマセミ。3月4日には新観光列車「かわせみやませみ」の運行も開始しました。

